

第56回中国地区学校保健研究協議大会報告書

会長 西村 正広

日時：平成23年8月18日（木）13時から19日（金）12時まで

場所：鳥取県とりぎん文化会館 小ホール 白兔会館

特別講演

「学校保健の課題とこれからの進め方」～ヘルシースクールを目指して～

前順天堂大学大学院教授 保険学博士 大津一義倬先生

ヘルスプロモーションの理念である QOL の向上を目指して、個人の力（健康教育）と社会の力（環境づくり）を合わせたヘルシースクールを推し進めていくことが必要と言われたが、時間が無かったのか、後半の「進め方の実際」を省略されたのは、残念でした。

職域部会 学校薬剤師部会

各県のおくすり教育の取組みについて協議されました。

岡山県：小学生用に紙芝居、中学生用に英語バージョンを作成されたパワーポイントを紹介された。

島根県：原稿付きスライド47枚を作成し、各々が編集して使用できるようにした。

広島県：幻覚の怖さなどを説明する資料として、3年B組金八先生パート7 第19話のDVDを紹介された。

鳥取県：県下の学校薬剤師にアンケートをされた結果を発表された。

山口県：20年からの取組及びホームページにアップしているパワーポイントを紹介した。

くすり教育は24年度から中学校で施行されます。「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」の中にくすり教育を入れる事への可否を協議しました。

班別研究協議会第4班「快適な学習環境づくりをめざす学校環境衛生活動」

快適な学習環境づくりをめざす学校環境衛生活動

～児童と共につくる快適な学校環境衛生～

鳥取県倉吉市立灘手小学校 養護教諭 塚根淳子先生

学校薬剤師が各教室で検査結果をその場で児童に伝えている様子が紹介されました。

学校環境衛生活動の活性化を図るために ～チームづくりから始めた実践報告～

山口県立防府高等学校 養護教諭 田中菊代先生

トイレの衛生点検月間活動などの保健委員の活動が紹介されました。生徒保健委員会の時間の取り方の質問が多かったです。

発表後のディスカッションで、活発な意見が出されました。児童生徒が自主的に日常点検をするシステムができないか質問をしたところ、防府商業高等学校での取組をフロアから紹介してもらいました。週番が実施しているそうです。

山口県教育庁学校安全・体育課 指導主事 中野貴夫先生及び島根県教育委員会中部教育局 指導主事 長田美穂先生が指導助言されました。中野先生の指導助言の中に、小学校の体育の学習教育要領では、「身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、指導内容を改善すること。」とあるそうです。それが、中学校になると「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、（以下略）」になり、高等学校では「個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるよう（以下略）」と変化するそうです。おくすり教育や「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」においても注意しないといけないと思いました。

来年は8月23日（木）岡山県で開催されます。今まで2日の日程でしたが、次のように1日の行程で開催される予定です。

9:30～10:00 開会行事 10:00～11:30 特別講演

12:30～14:00 職域部会 14:30～16:30 研究協議会

第56回中国地区学校保健研究協議大会報告

副会長 沖田敏宜

日時：平成23年8月18日、19日

場所：とりぎん文化会館 他

特別講演

『学校保健の課題とこれからの進め方』

～ヘルシースクールをめざして～

講師 前順天堂大学大学院教授 保健学博士 大津一義先生

今、なぜヘルシースクールなのかという問い掛けからはじまり、新学習指導要領（2008年3月）にも引き続き「生きる力」が教育政策として掲げられた。生きる力の理念は、子どもたちに自身をもたせることであり、学校全体の取り組みを進めるための基本方針に「生涯にわたり」という言葉が使われている。これは、学校教育は、生涯教育の基礎となるもので、健康は、生きがいの資源となることから「生涯にわたる」教育が必要という概念からきている。主体（個人之力）と環境（社会之力）が一緒になって健康づくりがなされ、自己の実現、夢の達成が出来るという話があり、地域との連携が取り上げられていたのが印象的だった。

職域部会 学校薬剤師部会

「くすり教育への学校薬剤師としての関わり方」について各県の報告があった。

岡山県：紙芝居形式で作成し、その英語版を作成した。

島根県：薬物乱用防止対策の一環として薬物乱用防止教室（小学生用）のパワーポイント・原稿をセットにしたCD-ROMを作成し、講演会を実施し希望者に配布した。

広島県：特別非常勤講師についての報告があった。広島県ではだれもが閲覧出来る様に資料をホームページに掲載している。

山口県：本年度は特別なことは行っていない。学校は、くすり教育より、24年度から始まる武道の方へ目が向いていることを報告。

鳥取県：くすり教育への意識調査実施の報告。今後、山口県での実施も検討したい内容であった。

判別研究協議会 第7班「子どもの健康を守り育てる薬物乱用防止教育」

小学校、中学校、高校の立場から報告があった。3校に共通していることは、「連携」と「考えさせる」ということであった。学校薬剤師、警察等が講義を行った後、子ども同士で議論し、それを日常生活に取り入れ発展させていることである。地域、保護者、関係諸機関との連携がいずれの学校もキーポイントとなるという報告であった。